

## 2023年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52531	施設実習指導 I Instruction for Practical Training I (Welfare Facilities)	谷村和秀		専門	1	選択	1年・2年後期・前期
<b>科目の概要</b>							
施設実習 I の意義と目的をおさえ、福祉施設の利用者の特性やサービスを把握する。また、施設実習 I を行うにあたっての目標や心構えを学び、実践できるようにする。施設実習 I 終了後は、学んだことや課題を整理し、今後の実習や保育の現場で生かす。							
<b>学修内容</b>				<b>到達目標</b>			
① 保育実習及び施設実習 I の意義と目的を理解する。 ② 施設実習を行う種別の概要を知る。 ③ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を認識する。 ④ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法を理解する。 ⑤ 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を認識する。				① 保育実習及び施設実習 I の意義と目的を理解できる。 ② 実習の実施施設の概要を理解し、自らの課題を明確に示すことができる。 ③ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について行動できる。 ④ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に実践できる。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を示すことができる。			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>					
前に踏み出す力	主体性	課題をするのに必要な知識について、教科書・文献を使って自己学修をすることができる。					
	働きかけ力						
	実行力	一度始めたことは最後までやり切ることができる。					
考え抜く力	課題発見力	思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。					
	計画力						
	創造力	物事を考える時に、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができる。					
チームで働く力	発信力	整理した内容を、的確な文章で表現できる。					
	傾聴力	人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	無断欠席、遅刻、居眠り、私語など講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 授業を欠席した際に、授業をフォローするレポートが作成できる					
	ストレスコントロール力						
<b>テキスト及び参考文献</b>							
テキスト：「学外実習の手引き」 愛知学泉短期大学幼児教育学科 「MINERVAはじめて学ぶ保育11 施設実習」 ミネルヴァ書房 2,200円＋税 参考文献：なし							
<b>他科目との関連、資格との関連</b>							
他科目との関連：子ども家庭福祉、社会的養護 I、社会的養護 II、保育の心理学、保育実習 I、施設実習 I 資格との関連：保育士 認定絵本士 (准学校心理士)							
<b>学修上の助言</b>				<b>受講生とのルール</b>			
・今までに学んだことや実習で体験したことを振り返りながら、実習に臨む。				・実習を行うにあたって、実習先の希望等、多くの書類の提出を求めるがその際の提出期限は厳守する。 ・実習に先立って行う事前指導をきちんと受けない学生は、この科目が受験できないことになるので注意する。			

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	0	①			
			②			
			③			
			④			
			⑤			
	平常評価	小テスト	20	①		実習記録作成にあたって必要な漢字のテスト
				②		
				③		
				④	✓	
				⑤		
		レポート	70	①	✓	① 施設種別・障がいに関する調べ学習 (5点×3回=15点) ② 施設職員による実習の心得を聞いての感想 (10点) ③ 実習の配属先の調べ学習 (5点) ④ 実習の目標の提出 (5点) ⑤ 実習記録の作成の学修 (5点) ※ 決められた期限内に提出しないと評価しない
				②	✓	
				③	✓	
				④	✓	
				⑤	✓	
成果発表 (プレゼンテーション・作品制作等)	0	①				
		②				
		③				
		④				
		⑤				
学修行動	社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	(主体性) 課題に取り組むにあたって、必要な知識を教科書・文献を使って自己学修をすることができたか。 (実行力) 一度始めたことは最後までやり切ることができたか。 (課題発見力) 思い込みや臆測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができたか。 (想像力) 物事を考える時に、固定概念に捉われないことと色々な方向から考えることができたか。 (発信力) 予習や講義での身につけた知識を整理し、的確な文章で表現できる。 (傾聴力) 教員や学生の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。 (規則性) ・遅刻・無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動はせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
①保育実習及び施設実習 I の意義と目的を理解する。 ②実習の実施施設の概要を理解し、自らの課題を明確にする。 ③ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 ⑥総合評価90点以上はS (秀)、89~80点をA (優) とする	①保育実習及び施設実習 I の意義と目的を理解する。 ②実習の実施施設の概要を理解し、自らの課題を明確にする。 ③ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 ⑥総合評価79~70点はB (良)、69~60点はC (可) とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	保育実習及び施設実習 I の概要を学ぶ (担当: 谷村)	講義 DVD視聴	・授業の流れについて理解できる ・施設実習の位置づけについて理解できる ・実習方法を理解できる	(予習) シラバスを読む	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	実習施設(養護系施設)を学ぶ ※ 乳児院・児童養護施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設・母子生活支援施設 (担当: 谷村)	演習 DVD視聴(乳児院について) 小テスト(漢字)	・実習を行う福祉施設の利用者について、説明できる	(予習) ・養護系施設について調べる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	・実習施設(障がい児者施設)を学ぶ ※ 障害児入所施設・児童発達支援センター・障害者支援施設など (担当: 谷村)	演習 小テスト(漢字)	・実習を行う福祉施設(障がい児・者)の利用者について、説明できる。	(予習) ・障がい系施設について調べる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	障がいのある人について学ぶ。 ※ 身体障がい・知的障がい・発達障がい (担当: 谷村)	演習 小テスト(漢字)	障がいのある人の生活のしづらさが説明できる	(予習) ・障がいについて調べる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	・施設職員による実習の心得を聞き、実習課題を考える (ゲストスピーカー)	講義	・児童福祉施設で実習を行うにあたっての心得を理解できる	(予習) 施設職員に質問を考えておく (復習) 施設職員による実習の心得をまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	施設実習 I の実習先を選定する。 (担当: 谷村)	演習	・施設実習 I の実習施設を選択できる。	(予習) 希望の実習施設について調べる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	生活支援(食生活、住生活・衣生活)について学ぶ (担当: 谷村)	講義	・施設での利用者の生活における支援を理解できる ① 食生活 ② 住環境の整備 ③ 衣生活	(予習) ① 食の意味を調べる ② 掃除の方法を調べる ③ 洗濯・アイロンの方法を調べる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	学習支援について学ぶ (担当: 谷村)	講義・演習	・施設での利用者の生活における支援を理解する ① 学習支援	(予習) ① 学習の目的を調べる	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	福祉施設の配慮を要する人のレクリエーションについて学ぶ。(絵本・手遊び・遊び等)支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割について学ぶ。	講義・演習	障がい者、病児及び高齢者等に対する絵本の役割や効果について理解することができる。支援が必要な人たちへの適切な絵本選び、紹介等を行うことができる。福祉施設の利用者に提供するレクリエーションを考案することができる。	(予習) テキスト120～127ページを読む 障がいに対応した絵本の種類を調べる。 支援が必要な人々へのレクリエーションの意義について調べる。 (復習) 支援が必要な人々への適切な絵本選びや絵本の紹介をレポートとしてまとめる。 30分レポート	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	実習連絡票・出席簿・誓約書などの実習書類を作成する (担当：谷村)	演習	・実習先を知り、グループのメンバーを確認する ・リーダー決め、連絡網を作成する ・実習に必要な書類を作成する ・実習費納入について理解する	(予習) ・実習連絡票に貼る写真を用意する	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	・事前指導について ・事前指導報告書の地図の作成 ・細菌検査についての説明 (担当：谷村)	演習	・実習記録ノートの配布 ・インターネットなどを使用して、最寄りの駅から施設までの地図を作成する ・細菌検査について理解する	(予習) ・配属された実習先までの通う方法を確認する ・事前オリエンテーションで、実習を行うにあたって確認しなければならない項目を確認する	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	①実習の目標を設定する ②実習記録の作成について、学ぶ。	講義・演習	① 実習の目標が自身で説明できる。 ② 実習記録の作成方法が理解できる	(復習) ① 実習の目標を作成する。 ② 実習記録の書き方を振り返る	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	・施設実習Ⅰを行うにあたって、注意事項など説明を受ける (直前指導) (担当：谷村)	演習	・実習における注意事項を理解する ・所感「実習を終えて」の配布	(予習) 巡回担当教員と実習の打ち合わせをしておく	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	実習反省会に参加し、実習を振り返る(グループ) (担当：谷村)	演習	・巡回担当教員ごとに集まり、反省会を行う(全教員担当)	(復習) 行った実習内容を整理しておく	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	施設実習Ⅰを振り返る (担当：谷村)	演習 施設実習Ⅰについて、フィードバックレポート作成	・施設実習Ⅰの学べた点・課題が説明できる。	(復習) 施設実習Ⅰで作成した記録を読み返す。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

## 2023年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52532	施設実習指導Ⅱ Instruction for Practical Training Ⅱ (Welfare Facilities)	谷村和秀		専門	1	選択	2年後期
<b>科目の概要</b>							
施設実習Ⅱの意義と目的をおさえ、福祉施設の利用者の特性やサービスを把握する。また、実習を行うにあたっての目標や心構えを学び、施設実習Ⅱの実践できるようになる。施設実習Ⅱ終了後は、学んだことや課題を整理し、保育に対する課題や認識を明確にする。							
<b>学修内容</b>				<b>到達目標</b>			
① 保育実習及び施設実習Ⅱの意義と目的を知る ② 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④ 保育士の専門性と職業倫理について学ぶ ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を学ぶ。				① 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解できる ② 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を実践できる。 ③ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して、実践できる。 ④ 保育士の専門性と職業倫理について、理解できる。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明らかにできる。			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>					
前に踏み出す力	主体性	課題をするのに必要な知識について、教科書・文献を使って自己学修をすることができる。					
	働きかけ力						
	実行力	一度始めたことは最後までやり切ることができる。					
考え抜く力	課題発見力	思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。					
	計画力						
	創造力	物事を考える時に、固定概念に捉われないことと色々な方向から考えることができる。					
チームで働く力	発信力	整理した内容を、的確な文章で表現できる。					
	傾聴力	人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	無断欠席、遅刻、居眠り、私語など講義に支障をきたす行動をせず、実習が円滑に進行するようルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
<b>テキスト及び参考文献</b>							
テキスト：「学外実習の手引き」 愛知学泉短期大学幼児教育学科 「保育士をめざすための児童福祉施設実習」 参考文献：なし							
<b>他科目との関連、資格との関連</b>							
他科目との関連：子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ、社会的養護Ⅱ、子どもの心理学、保育実習Ⅰ、施設実習Ⅰ 資格との関連：保育士							
<b>学修上の助言</b>				<b>受講生とのルール</b>			
・今までに学んだことや実習で体験したことを振り返りながら、実習に臨む。				・実習を行うにあたって、実習先の希望等、多くの書類の提出を求めるがその際の提出期限は厳守する。 ・実習に先立って行う事前指導をきちんと受けない学生は、この科目が受験できないことになるので注意する。			

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	0	①			
			②			
			③			
			④			
			⑤			
	平常評価	小テスト	20	①		実習記録作成にあたって必要な漢字のテスト
				②		
				③		
				④	✓	
				⑤		
		レポート	70	①	✓	①施設種別・障がいに関する調べ学習 (10点×3回=30点) ②施設職員による実習の心得を聞いての感想 (10点) ③実習で学びたいことの提出 (10点) ④実習振り返りレポート (20点) ※ 決められた期限内に提出しないと評価しない
				②	✓	
				③	✓	
				④	✓	
				⑤	✓	
成果発表 (プレゼンテーション・作品制作等)	0	①				
		②				
		③				
		④				
		⑤				
学修行動	社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	<small>(主体性)</small> 課題に取り組むにあたって、必要な知識を教科書・文献を使って自己学修をすることができたか。 <small>(実行力)</small> 一度始めたことは最後までやり切ることができたか。 <small>(課題発見力)</small> 思い込みや偏見でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができたか。 <small>(想像力)</small> 物事を考える時に、固定概念にとわらわれないでいろいろな方向から考えることができたか。 <small>(発信力)</small> 予習や講義での身につけた知識を整理し、的確な文章で表現できる。 <small>(傾聴力)</small> 教員や学生の意見を確認し、さらに自分の意見を述べるができる。 <small>(規則性)</small> ・欠席した際、授業内のフォローができる。 ・授業開始から15分以内に入室した者は遅刻扱いとする。 ・授業開始から15分を超えて入室した者は欠席扱いとする。 ※但し、公共交通機関の遅延による遅刻については遅刻及び欠席扱いしない。(遅延証明書を提出すること) ・許可なくスマートフォン使用と私語・居眠りで注意されたら減点とする。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
①保育実習及び施設実習Ⅰの意義と目的を理解する。 ②実習の実施施設の概要を理解し、自らの課題を明確にする。 ③ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 ⑥総合評価90点以上はS(秀)、89~80点をA(優)とする	①保育実習及び施設実習Ⅰの意義と目的を理解する。 ②実習の実施施設の概要を理解し、自らの課題を明確にする。 ③ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 ⑥総合評価79~70点はB(良)、69~60点はC(可)とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	施設実習Ⅱの概要を学ぶ	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れについて理解できる</li> <li>・施設実習の位置づけについて理解できる</li> <li>・実習方法を理解できる</li> </ul>	(予習) シラバスを読む	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	実習施設（養護系施設）及び専門職を学ぶ	演習 小テスト（漢字）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を行う福祉施設の利用者について、理解する</li> </ul>	(予習) <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護系施設について調べる</li> <li>・専門職について調べる</li> </ul>	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	・実習施設（障がい児者施設）を学ぶ	演習 小テスト（漢字）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を行う福祉施設（障がい児・者）の利用者について、理解する</li> </ul>	(予習) <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい系施設について調べる</li> </ul>	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	障がいのある人について学ぶ。	演習 小テスト（漢字）	障がいのある人の生活のしづらさを理解する。	(予習) <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいについて調べる</li> </ul>	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	・施設職員による実習の心得を聞き、実習課題を考える (ゲストスピーカー)	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉施設で実習を行うにあたっての心得を理解する</li> </ul>	(予習) 施設職員に質問を考えておく (復習) 施設職員による実習の心得をまとめる。	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	施設実習Ⅰの実習先を選定する。	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設実習Ⅰの実習施設を選べる。</li> </ul>	(復習) 希望の実習施設について調べる。	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	生活支援（食生活、住生活・衣生活）について学ぶ	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設での利用者の生活における支援を理解する</li> <li>① 食生活</li> <li>② 住環境の整備</li> <li>③ 衣生活</li> </ul>	(予習) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 食の意味を調べる</li> <li>② 掃除の方法を調べる</li> <li>③ 洗濯・アイロンの方法を調べる</li> </ul>	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	学習支援について学ぶ	講義・演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設での利用者の生活における支援を理解する</li> <li>① 学習支援</li> </ul>	(予習) ①学習の目的を調べる	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	実習連絡票・出席簿・誓約書などの実習書類を作成する	演習	・実習先を知り、グループのメンバーを確認する ・リーダー決め、連絡網を作成する ・実習に必要な書類を作成する ・実習費納入について理解する	(予習) ・実習連絡票に貼る写真を用意する	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	・事前指導について ・事前指導報告書の地図の作成 ・細菌検査についての説明	演習	・実習記録ノートの配布 ・インターネットなどを使用して、最寄りの駅から施設までの地図を作成する ・細菌検査について理解する	(予習) ・配属された実習先までの通う方法を確認する ・事前オリエンテーションで、実習を行うにあたって確認しなければならない項目を確認する	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	・実習の目標や記録の書き方を学ぶ	演習	・実習の目標及び記録の書き方を理解できる	(予習) ・配属された施設について、調べる	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	・現地オリエンテーションを受ける	演習	・グループごとに、実習先の施設に訪問し、施設の説明、実習における諸注意などを理解する	(予習) 事前指導を受けるにあたって、確認することを確認する	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	・注意事項の説明を受ける (直前指導)	演習	・実習における注意事項を理解する ・所感「実習を終えて」の配布	(予習) 巡回担当教員と実習の打ち合わせをしておく	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	実習反省会に参加し、実習を振り返る(グループ)	演習	・巡回担当教員ごとに集まり、反省会を行う(全教員担当)	(復習) 行った実習内容を整理しておく	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	施設実習Ⅱを振り返る	演習 施設実習Ⅱについて、フィードバック	・施設実習Ⅱの学べた点・課題が挙げられる。	(復習) 施設実習Ⅱで作成した記録を読み返す。	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力